



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道沼田町の上部幌加尾白利加層（下部鮮新統）から 産出した新たな若いヌマタネズミイルカについて
Author(s)	田中, 嘉寛
Citation	化石, 100, 140-141
Issue Date	2016-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65242
Type	article
File Information	kaseki100_140-141.pdf



本稿は下記論文の解説記事です.

Tanaka, Y. (2016) A new and ontogenetically younger specimen of Numataphocoena yamashitai from the upper part of the Horokaoshirarika Formation (lower Pliocene), Numata, Hokkaido, Japan. Paleontological Research, vol. 20, no. 2, p 105-115.

**北海道沼田町の上部幌加尾白利加層（下部鮮新統）から
産出した新たな若いヌマタネズミイルカについて**

田中嘉寛（沼田町化石館・北海道大学総合博物館）

20巻2号105-115頁，2016年4月発行.

脊椎動物の化石種は1種に対して1標本しか知られていない場合が多く，なかなかオス・メス，あるいは成体・幼体などのバリエーション（変異）を知ることが難しいところが悩みの種です.

北海道沼田町から知られているヌマタネズミイルカ（学名：ヌマタフォッシナ ヤマシタアイ）はIchishima and Kimura（2000）によって新属新種として記載されました．しかし，長らくタイプ標本（標本番号NFL7）しか知られていなかったため，バリエーションについては不

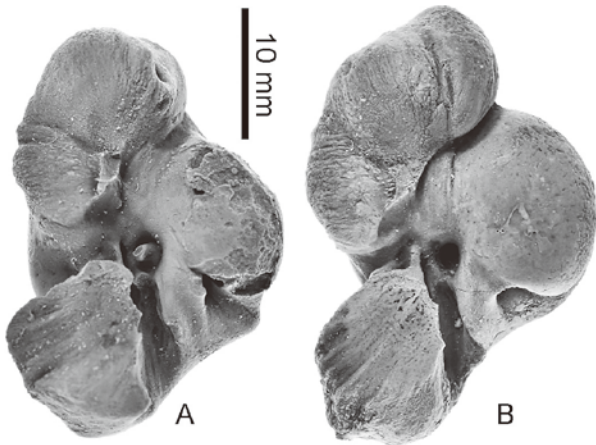


図9. ヌマタネズミイルカの耳骨. タイプ標本（右）とやや若い第二標本（左）

明なままでした。

タイプ標本の発見から30年たった2015年、収蔵庫でタイプ標本にそっくりな耳骨が見つかりました。第二のヌマタネズミイルカです。それはタイプ標本と同じ産地、同じ層準（幌加尾白利加層、下部鮮新統）から、1986年に発掘されたものでした。第二標本はタイプ標本に比べて9割程度の大きさで、やや若い個体と推測されました（図9；左が第二標本NFL 2617，右がタイプ標本NFL 7）。この新しい標本によってヌマタネズミイルカの特徴、あるいは識別形質がはっきりしてきました。やはり1標本よりは2標本あるほうが良いのです。

さらに、ヌマタネズミイルカと他のネズミイルカ化石の耳骨を比較したところ、ヌマタネズミイルカは北海道羽幌町のハボロネズミイルカと類似していることが強調されました。沼田町と羽幌町は距離にして50キロメートルしか離れておらず、地質年代も同じ前期鮮新世です。ヌマタネズミイルカの類縁関係は未だ不明ですが、徐々に明らかになってきています。

Ichishima, H. and Kimura, M., 2000, *Journal of Vertebrate Paleontology*, **20**, 561–576.

田中嘉寛